

## 第21回 総合防犯設備士資格認定試験問題

### C問題解答例



**C 問題-1 (セキュリティについて) 解答例**

安全で平和な生活と組織活動の継続を確保するためには、適切で明解な行動の基となるセキュリティポリシーの策定が重要な鍵となる。

総合防犯設備士として組織活動上の防犯対策を提案する場合には、セキュリティポリシーの考え方や手法を参考にすることが望まれる。以下の問1-4に答え解答欄に記せ。

**解答欄**

1. セキュリティポリシーの定義を記せ。

組織には、経営方針や営業方針など、トップの意思表示がある。セキュリティ分野でこれに相当するのがセキュリティポリシー、すなわち、セキュリティに関する組織の基本方針である。これは、安全で平和な生活と組織活動の継続を維持するため、どのように取り組み、どのように行動するかについて、トップの意思を方針として文書化して表明するものである。

2. セキュリティポリシー策定上の留意点を記入例にならって3項目を記せ。

①	一部の部署でなく、全組織的体制で策定する。
②	組織が独自に培ってきた文化に無理のないように配慮する。
③	不履行や違反行為に対して強制力のある罰則をもたせる。
④	策定したポリシーに柔軟性をもたせる。
⑤	必ず組織の最高責任者名で公布する。
⑥	他のポリシーとの整合性を図る。

3. セキュリティポリシーは、策定したものを運用することが重要である。ここでいう「運用」の内容を例にならって記せ。

①	継続的改善
②	新しいリスクに関する情報収集
③	緊急対応
④	監視
⑤	監査
⑥	普及活動(アウェアネスの醸成)
⑦	取締り
⑧	問合せ対応

4. 今日では、内部犯行への対応のほか、社会的信用というリソース(資産)を防御するために倫理規定の策定とコンプライアンス(遵法精神の徹底)の実施が重要になっている。  
倫理規定とコンプライアンスの基本的な考え方を述べよ。

倫理の国際的キーワードは、自由(Free)、公正(Fair)及び透明性(Transparent)である。このキーワードの根底にあるのは、ルールを守るといふごく当然なものである。

倫理規定とコンプライアンスは、セキュリティポリシーの一部として構成し機能させるべきである。コンプライアンスとは、法的ルールを守ること、対象の法的ルールを知ることから始まる。

法的ルールを尊重するのは、相手に損害を与えたり、相手から損害賠償請求を受けたりしないようにするためだけではなく、何よりもリスクから身を守り、生き延びていくための必須条件と考えるべきである。

## C 問題-2 (防犯設備)

## 解答例

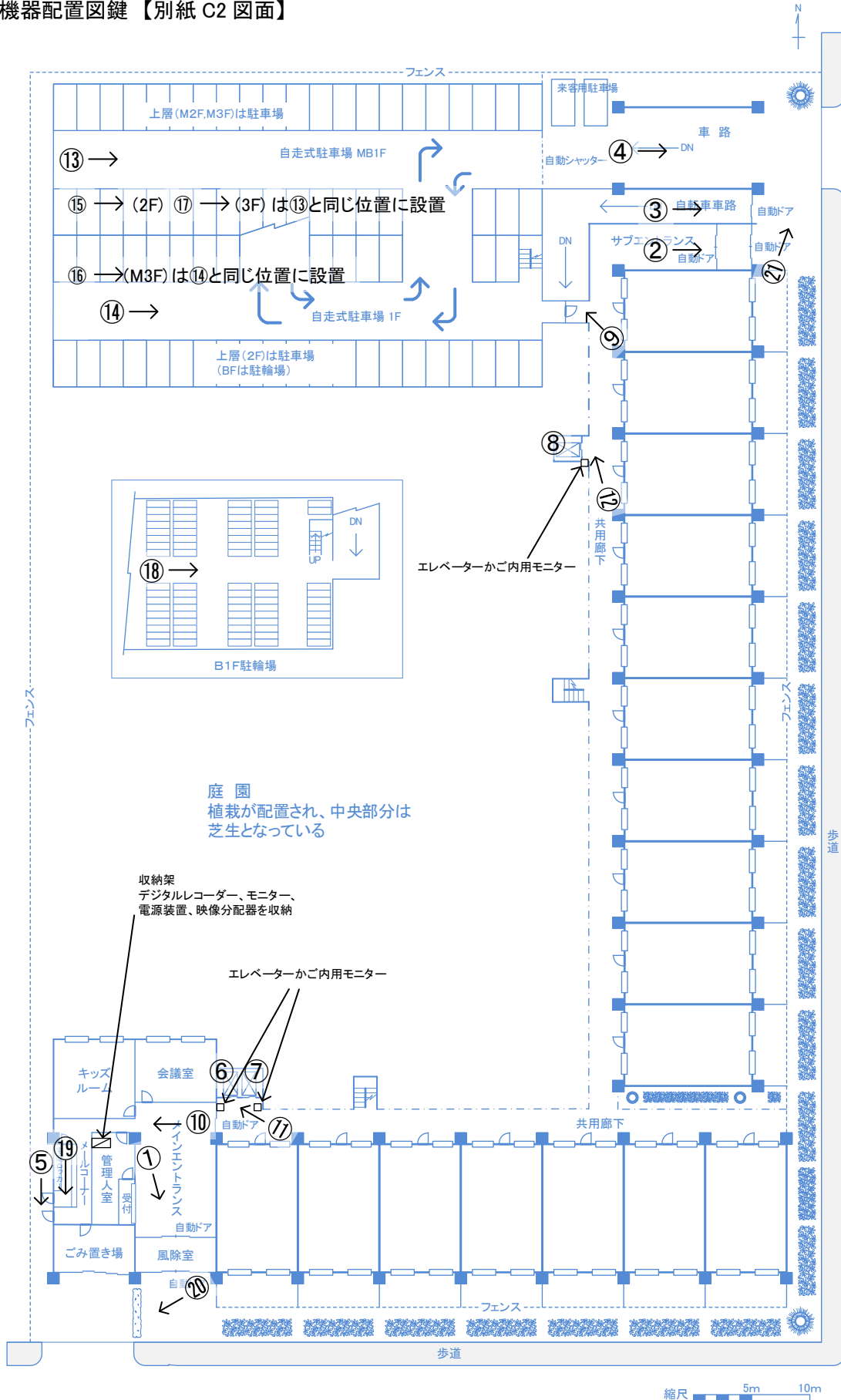
## 1 防犯カメラ一覧表

カメラ番号	撮影対象場所	撮影目的	画角	必要機能
1	(記入例)メインエントランス入口扉付近	扉を通過する入館者の人物の特定	A	ワイドダイナミック機能
2	サブエントランス入口扉付近	扉を通過する入館者の人物の特定	A	ワイドダイナミック機能
3	駐輪場入口扉付近	扉を通過する入館者の人物の特定	A	ワイドダイナミック機能
4	車路入口付近	入出庫する車の車両の特定	A	ワイドダイナミック機能
5	メールコーナー入口扉付近	扉付近の人物の特定	A	ワイドダイナミック機能 デイナイト機能
6	エレベーター内部	エレベーター内の人物の特定	B	
7	エレベーター内部	エレベーター内の人物の特定	B	
8	エレベーター内部	エレベーター内の人物の特定	B	
9	駐車場、駐輪場入口扉付近	扉付近の人物の特定	A	ワイドダイナミック機能
10	メールコーナーへの通路、会議室及びキッズルーム入口付近	左記付近の行動把握	A	
11	エレベーターホール	エレベーターホールの行動把握	A	ワイドダイナミック機能
12	エレベーターホール	エレベーターホールの行動把握	A	ワイドダイナミック機能
13	駐車場内(MB1F)	駐車場内の行動把握	A25	
14	駐車場内(1F)	駐車場内の行動把握	A25	
15	駐車場内(M2F)	駐車場内の行動把握	A25	
16	駐車場内(2F)	駐車場内の行動把握	A25	屋外設置型
17	駐車場内(M3F)	駐車場内の行動把握	A25	屋外設置型
18	駐輪場内	駐輪場内の行動把握	A25	
19	メールコーナー投入側	左記付近の行動把握	A	
20	メインエントランス風除室外部	付近の行動把握	A25	屋外設置型、赤外線照明、デイナイト機能
21	サブエントランス風除室外部	付近の行動把握	A25	屋外設置型、赤外線照明、デイナイト機能

注1:カメラ2~8は必須とする

注2:カメラ9~21のうち8か所を選択する

2 機器配置図鍵【別紙 C2 図面】













次頁へ続く

### 3 系統図

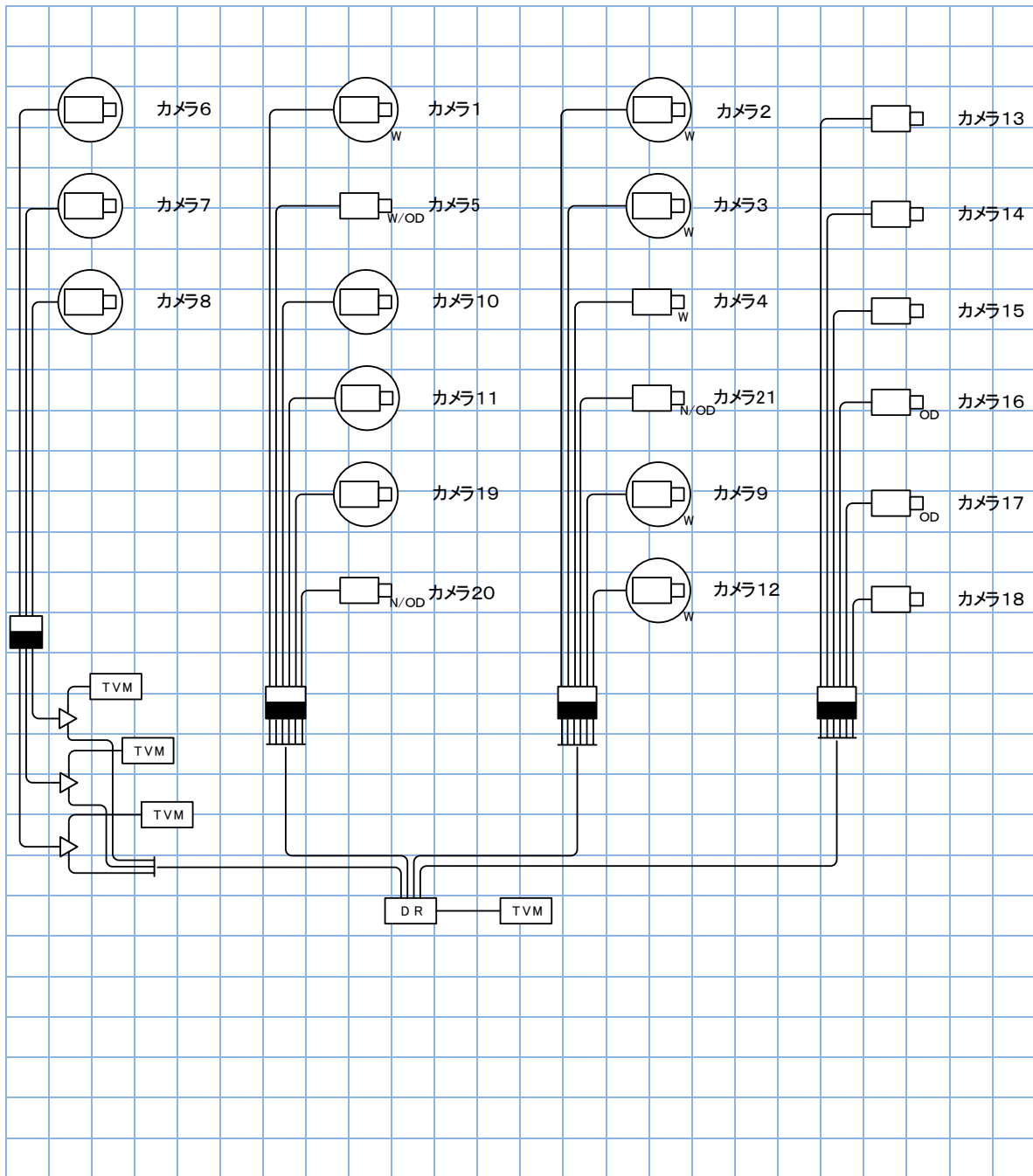
1. 系統図内のカメラの図記号には、カメラ番号を記入のこと。
2. 日本防犯設備協会の図記号以外を使用する場合には右の凡例に記入のこと。

#### 凡例

図記号	名称	必要とする機能・仕様
	防犯カメラ	
	防犯カメラ	ワイドダイナミック機能付き
	防犯カメラ	ワイドダイナミック機能付き 屋外設置型
	防犯カメラ	デイナイト機能付き 屋外設置型
	防犯カメラ	屋外設置型
	防犯カメラ	
	電源装置	電源重畳式
	映像分配器	
	デジタルレコーダー	
	モニター	

次頁に続く

注:上図カメラ1~21の内、カメラ一覧表の16台を図示する



## C 問題-3 (総合防犯監査)

## 解答例

## (1) 現状の懸念事項、問題点について

① 金庫室の暗証番号を仮眠中の警備員や元契約社員が知っていたこと。
② 金庫室の出入管理が簡易すぎること。
③ 腰高窓のカムラッチハンドルが壊れたまま半年以上放置されていたこと。
④ 社員通用口やメインの出入口の出入が制御、管理されていないこと。
⑤ 網入り板ガラスの防犯性能を理解していないこと。
⑥ 侵入警報システムが運用に適していないこと。
⑦ 多額の現金を保管している責任感や危機管理意識が低いこと。
⑧ 警備業法で定められている法定教育が実施されていなかったこと。

## (2) (改善策)運用管理について

① 営業所内への入退室ルールを改善する。(出入口①および③)
・ 入室時、退室時に誰が、何時何分に、どの出入口にアクセスしたのか記録をとる。
・ 許可された者の認証操作で解錠し、閉扉時は自動施錠する。
・ 部外者は、テレビドアホンにより確認し、遠隔操作で解錠、入室する。
② 金庫室への入退室ルールを厳重にする。
・ 特別に許可された少数の者しかアクセス権を持たない運用とする。
・ ツーマンルールを導入する。
③ 警備員に対する法定教育を正しく行う。
④ 社員教育で、多額の現金を保管している責任感や危機管理意識、モラルの向上を図る。
⑤ 運用管理や防犯設備の不具合発生時には改善提案等を行う防犯責任社(例えば総合防犯設備士)を置く。

## (3) (改善策)防犯設備について

① 出入口①および③について出入管理システムを新規導入する。
・ 許可された者の認証操作で入室、退室する。
・ 誰が、何時何分に、どの出入口を入室したのか、退出したのかの記録を取る
・ アンチパスバック制御機能を導入し、入室記録が無いと退室時の認証を許可しない、退室記録が無いと次の入室時の認証を許可しない機能を備える。
② 金庫室の出入管理システムを改善する。
・ 契約社員までもが金庫室を開けられる運用および現状システムを、特別に許可された者しか解錠できない運用とするよう、システムを改善する。
・ ツーマンルールを導入(二人在室制御機能)する。
例: W営業所所長と本社取締役の二人が続けて認証しなければ解錠しない機能とする。

次項に続く



<p>③ 侵入警報システムの改善。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4か所の出入口部に設置の検知器を1回線の警報制御盤で制御しているシステムを 出入口ごとに警戒開始／解除ができるシステムに変更する。</li> <li>・ 具体的には5回線警報制御盤で個別に警戒開始／解除できるようにする。将来的に予備回線を考慮すると10回線警報制御盤でも良い</li> <li>・ しっかりと閉まらない腰高窓は早急にカムラッチハンドルを修理する必要があるが、その間も、他の出入口3か所は、警戒開始／解除の操作が行えるようにする。</li> </ul>
<p>④ 網入り板ガラスが3か所の出入口部と1箇所の開口部に使用されているが、防犯性能を考慮したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 網入り板ガラスは、防火用であり延焼防止効果を狙ったものである。ガラスの強度は通常のフロート板ガラスより低く、割れたガラスが脱落せず音が小さいことから、逆に狙われやすいガラスとも言える。金属線は市販の工具で簡単に切断することができる。</li> <li>・ なお、防犯ガラス、防犯フィルムを使用する場合は、消防法の絡みで所轄の消防署に確認しておく必要がある。</li> </ul>
<p>⑤ 使用しているルーターの仕様を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IoT 機器のサイバー攻撃対策として、防犯設備機器がインターネット網と直接接続される場合、電気通信事業法のセキュリティ基準に係る認定を受けた機器か、認定を受けたルーターなどを介して接続する必要がある。</li> <li>・ パスワードなども適切に管理することが必須である。</li> </ul>
<p>⑥ 出入口①および③には、防犯用テレビドアホンを設置する。</p>
<p>⑦ 防犯設備は定期メンテナンスを実施し、不具合が発生すれば即座に改修、改善するなど維持管理に務める。</p>